

第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の開催に向けた検討状況及び今後の取組について

<大会の概要>

	アジア競技大会	アジアパラ競技大会
主 催 者	アジア・オリンピック評議会 (O C A)	アジアパラリンピック委員会 (A P C)
開 催 期 間	2026年9月19日(土) ～10月4日(日)	2026年10月18日(日) ～10月24日(土)
参加国・地域	O C A加盟の45の国と地域	A P C加盟の45の国と地域
選 手 団 (選手・チーム役員)	最大15,000人	3,600～4,000人
実 施 競 技	41 競技	18 競技

1 組織委員会の取組

(1) 競技及び競技会場の検討 (別添1－1及び別添1－2参照)

- ・各国・地域が競技ごとの参加見込選手数を登録するエントリーバイナンバーを実施（アジア競技大会：2025年7月～9月、アジアパラ競技大会：2025年8月～10月）
- ・2025年5月以降、伊豆ベロドロームでの自転車競技を始め順次テストイベントを実施し、本大会に向けて課題を洗い出し対応を検討
- ・2024年度に作成した会場運営計画について、テストイベントや各関係者との協議等を踏まえて、計画内容を更新
- ・アスリート委員会を開催し、大会運営等に関する意見交換等を継続的に実施
- ・アジア競技大会の競技に関する技術代表（TD）を招き、大会準備状況の確認等を行うTDミーティングを開催（2025年4月30日～5月2日実施）
- ・競技会場仮設オーバーレイ整備の実施設計を実施
- ・スケートボード始め5種別の競技エリアの実施設計及び工事を実施
- ・競技結果を処理し、情報を配信する計時計測システムの設計・開発を実施

(2) 宿泊計画の検討

- ・宿泊施設、ホテルシップ、移動式宿泊施設における具体的な運営方法を検討し、関係各所と調整・交渉を実施
- ・大会関係者の各宿泊施設への配宿シミュレーションを実施し、宿泊施設と契約締結に向けた交渉を実施
- ・大会関係者の宿泊管理を実施するため、宿泊管理センターを設置予定

- ・選手団の宿泊施設として愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会 J Vニトリ・アーキビジョン21と移動式宿泊施設賃貸借の契約を締結
- ・選手団の宿泊施設としてホテルシップの契約を締結予定

(3) 輸送・警備計画の検討

- ・大会関係者輸送に関するバス及び乗用車の運行計画、車両・運転手確保及び運行管理体制、宿泊施設計画を踏まえた輸送拠点間の輸送ルート等について継続して検討。また、車両を管理するための拠点の実施設設計及び工事を実施
- ・警備ガイドラインVer. 3を改定（2025年6月2日）。また、関係機関との現地踏査を実施し、順次、大会関係施設の警備計画を精査

(4) 情報システム・通信ネットワークの構築

- ・OCAと協議し作成したITガイドラインに沿って大会情報システムの設計・開発を実施
- ・大会ネットワークについて、基本設計に基づき、各会場の詳細設計及び機器調達を実施

(5) メインメディアセンター・映像制作にかかる検討

- ・報道関係者及び放送事業者の活動拠点となるメインメディアセンターの実施設設計を実施
- ・国際映像（特定の国や地域に偏らない競技映像）の制作に関する計画を作成

(6) ブランド開発・管理及びマーケティング活動等

- ・大会ピクトグラムを制作・公表（2025年9月予定）
- ・大会に関連する多種多様なアイテムに展開するルック（装飾）を開発
- ・パートナー権利保護のため、各競技会場の既設看板等のマスキングを行うクリーンベニューの基本計画及び実施計画を策定
- ・2025年9月以降、チケットティング計画に基づきチケット販売を実施予定
- ・引き続き、パートナー候補企業へのセールス及びパートナー契約の締結に向けた協議を実施
- ・2025年7月時点で361°、BORNAN SPORTS TECHNOLOGY、東武トップツアーズ(株)、(株)JTB、の4社とパートナー契約を締結、トヨタ自動車(株)、(株)三菱UFJ銀行、豊島(株)等11社と覚書等を締結
- ・引き続き、公式ライセンスグッズを製作するライセンシーの募集及び公式ライセンスグッズの販売を実施
- ・公式ライセンスグッズを販売するオフィシャルオンラインショップを開設
- ・2025年5月7日、6月5日に500日前イベントをサカエチカで実施

（７）開閉会式の検討

- ・開閉会式の実施については、総監督も含めた制作チームを編成予定
- ・開閉会式本番に向けて、運営計画の作成と演出プラン等の制作を実施

２ 開催都市の取組

（１）開催都市における大会運営

- ・観客輸送に関するバス車両・運転手の調達開始。開催に向けて観客輸送に関する計画を精査・改定
- ・観客警備に関する警備員の確保及び警備資機材の調達を開始。開催に向けて観客警備に関する計画を精査・改定
- ・大会運営・観客誘導の円滑化及び観客移動等による地元住民生活等への影響の低減を図るため都市オペレーションセンター運営計画をもとに、地元調整を本格化し、都市オペレーションセンターの運営要領を作成
- ・2025年9月以降、都市オペレーションセンターの図上訓練及び実運用訓練を順次行い、運営要領の実行性を検証

（２）開催機運の醸成

- ・アジア・アジアパラ競技大会1年前イベントを県内4か所で実施（9月20日：名古屋テレビ塔、10月5日：エントリオ、10月18日：JRゲートタワーイベントスペース、10月26日：岡崎市中央総合公園総合体育館）
- ・県外では、日本陸上競技選手権大会（7月5日～7月6日）や大阪・関西万博（8月22日～8月24日）等、県内では愛知万博20周年記念事業（キャナルパークささしま、9月13日～9月14日）、（愛・地球博記念公園、9月23日）、ツーリズムEXPO ジャパン2025 愛知・中部北陸（9月27日～9月28日）等の大型イベントへのブース出展を実施
- ・愛知国際アリーナのオープニングイベントや太閤祭り、ボートレース蒲郡等での協賛レースを始めとした、県内市町村やスポーツ大会等のイベントへのブース出展の実施
- ・引き続き、Youtubeなどウェブを活用したPR、小中学生・高校生に向けたPR及び県内イベントでのブース出展などを実施

３ 組織委員会・開催都市の取組

（１）ボランティア

- ・一般ボランティアでは、採用イベントを実施し、2025年6月末からボランティア採用者への採用決定を通知（2025年5月31日時点で26,096人の応募）
- ・2025年7月頃から共通研修やリーダー研修等を実施
- ・2025年8月1日に中区役所ホールにて、ユニフォーム発表会を実施

- ・語学や競技などの専門ボランティアについては、2025 年 10 月 31 日まで募集中

(2) 聖火リレー・文化プログラムの検討

- ・聖火リレーについて、実施計画に基づき、詳細な内容を検討する運営計画を作成
- ・文化プログラムについて、開催都市が実施計画に基づき、実施の詳細な内容を検討する詳細計画を作成。また、大会 1 年前（2025 年 9 月）から、組織委員会が認証した Aichi-Nagoya 2026 公認文化プログラムの事業開始

(3) 競技会場等の確保

- ・大会で使用する競技会場等の施設について、施設所有者等と詳細な使用期間や使用方法等に関する協議・調整
- ・施設借り上げに伴い営業休止を余儀なくされる各種テナント等への補償に向けた損失補償額の算定及び補償契約に向けた協議
- ・競技会場において仮設の電源設備・通信ネットワーク整備にかかる機器類調達及び工事を実施予定

(4) 財源の確保

- ・2025 年 6 月に閣議決定された経済財政運営と改革の基本方針 2025（骨太の方針）の本文に「両大会の意義を踏まえた各般の開催支援に取り組む」と明記。引き続き、県市議員連盟や関係国会議員の協力のもと、文部科学省やスポーツ庁を始め関係省庁に対して、大会経費への支援等についての要請を実施
- ・名古屋競馬、ボートレース（常滑、蒲郡）に加え、名古屋・豊橋競輪場などにおいても、大会支援を目的とした協賛レース等を開催
- ・経済団体と連携し、企業訪問により、寄附金募集活動を実施（2025 年 4 月に組織委員会への寄附金が指定寄附金へ指定）

4 アジア・アジアパラ競技大会を契機とした取組

(1) 大会を契機としたビジョン等の推進

① 愛知県

- ・2019 年 3 月策定（2023 年 3 月改訂）の「アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」に基づき、両大会を活用した地域活性化に向けた取組を各局において推進
- ・大会期間、大会後の具体的な取組を示すロードマップを策定
- ・引き続き、両大会を活用した地域活性化に向けた取組を各局において推進

② 名古屋市

- ・2019 年 10 月に策定（2025 年 1 月改訂）した「2026 アジア・アジアパラ競技大会 NAGOYA ビジョン」に掲載した取組を各局区室において推進

- ・2022年11月に策定した「瑞穂公園陸上競技場地区バリアフリー基本構想」やアクセスルートのバリアフリー調査に基づく整備の実施
- ・各区区民まつりにおける機運醸成イベントや、広報なごやにおいてアジア・アジアパラ競技大会の特集ページを掲載するなど、各局区室において、機運醸成につながる取組を継続実施
- ・多くの人の目に留まる市有施設等での装飾・ラッピングを実施予定

(2) アスリートの発掘・育成・強化

① あいちトップアスリートアカデミー

- ・県内5会場で選考会を実施し、668名の応募者から、キッズ40名、ジュニア60名、ユース16名、パラアスリート部門12名を選考
- ・7月21日に開講式を開催し、2026年3月14日までアカデミー活動を実施予定
- ・アカデミー修了生1名がインターハイ（フェンシング）に出場予定

② オリンピック・アジア競技大会等選手強化

- ・オリンピックやアジア競技大会等で活躍する本県ゆかりの選手（パラ選手を含む）を強化するため、競技団体から推薦された選手から188名を強化指定選手に指定し、競技用具費や遠征費等の強化費を補助

③ アスリートキャリア支援

- ・アスリートが安心して競技を継続できる環境を整え、引退後も経験を活かしたキャリアを形成できるように、キャリア形成等を支援
- ・10～12月頃にアスリート向け・企業向け講座、2026年3月頃にマッチングイベントを開催予定。また、12月頃にマッチング支援サイトを公開予定

(3) 愛知国際アリーナの整備・運営

- ・PFI手法の「BTコンセッション方式」により、設計・建設から維持管理・運営を一体として民間事業者（株式会社愛知国際アリーナ）が実施
- ・2025年3月31日竣工、2025年7月の大相撲名古屋場所でグランドオープン
- ・アジア競技大会ではバスケットボールと柔道、アジアパラ競技大会では車いすバスケットボールの競技会場となる予定

(4) 瑞穂公園の整備

- ・PFI方式により陸上競技場の改築を含む瑞穂公園の整備と公園全体の維持管理運営を一体として実施する民間事業者と2021年7月に事業契約を締結
- ・現在、陸上競技場建設工事及び公園整備工事中

(5) 市町村施設改修への補助

- ・市町村が所有する競技施設において、大会の開催に必要な照明のLED化、バリアフリー化等の改修をする場合に補助金を交付

- ・ 8 施設に対し、交付決定済（豊橋市民球場、岡崎中央総合公園野球場、一宮市総合体育館、ウェーブスタジアム刈谷、豊田スタジアム、安城市総合運動公園ソフトボール場、小牧市スポーツ公園総合体育館、東海市民体育館）（2025 年 7 月末時点）
- ・ 3 施設に対し、交付決定予定（岡崎中央総合公園多目的広場、ウィングアリーナ刈谷、スカイホール豊田）
- ・ 昨年度交付決定済の 4 施設については、引き続き改修工事を実施中（豊橋市総合体育館、岡崎中央総合公園総合体育館、春日井市総合体育館、西尾市総合体育館）

（6）宿泊施設バリアフリー化の推進

- ・ 大会開催を契機に、宿泊事業者がバリアフリー化の改修等をする場合に補助金を交付
- ・ 2025 年度 7 月末時点では、9 件の交付決定を予定
- ・ 客室の拡張やバリアフリースイレへの改修などを実施

（7）フレンドシップ事業の推進

① 愛知県

- ・ 県内の市町村や小中学校等が、大会を契機としたアジア各国・地域との交流を推進する取組を実施する場合に補助金を交付
- ・ 2025 年 6 月末時点では 7 市 14 事業、延べ 176 校で実施予定
- ・ 市町村での具体的な取組として、アジアをテーマとした音楽ステージと食に関するトークセッションによる、アジア地域出身の住民との交流イベント等を実施
- ・ 小中学校等での具体的な取組として、外国人講師を招いたアジアの文化や言語を学ぶ授業等を実施

② 名古屋市

- ・ 大会を契機に多様性・共生社会への理解を促進するため、名古屋市立学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）及び地域住民向けに、アスリート・パラアスリート訪問を含む「大会を知る」、「国際理解」、「障害者理解」をテーマとした講師派遣講座を 70 回程度実施予定

（8）パラアスリート学校訪問事業の推進

- ・ 県内の小学校及び特別支援学校にパラアスリートが訪問し、競技の体験や、子どもたちへの講演を実施（5 月 23 日：豊橋市立花田小学校、6 月 27 日：春日井市立味美小学校、7 月 8 日：武豊町立衣浦小学校の 3 校で実施、9 月以降 6 校で実施予定）